

浜銀総研 News Release



横浜銀行グループ

2017年10月27日

横浜DeNAベイスターズの日本シリーズ優勝による経済効果

— 直接的な経済効果は約75億円 —

要 旨

横浜市に本拠地を置く横浜DeNAベイスターズは、阪神タイガース、広島東洋カープとのクライマックスシリーズを制し、19年ぶりの日本シリーズ進出を果たした。10月28日（土）からはヤフオクドームで日本シリーズが始まり、31日（火）には横浜スタジアムで福岡ソフトバンクホークスを迎え撃つ。横浜DeNAベイスターズの快進撃が続けば横浜の街が盛り上がり、地元経済にも様々なプラス効果を与えよう。

そこで浜銀総合研究所では、横浜DeNAベイスターズが日本シリーズで日本一の座に輝いた場合の地元横浜への経済効果を試算した。

試算によると、①日本シリーズにおける横浜スタジアム周辺などでの消費額（飲食、物販、入場料、交通費、宿泊費）、②百貨店・スーパーでの優勝セール、③優勝パレード時の消費など、横浜DeNAベイスターズ優勝に伴う直接的な支出増加額の合計は約75億円となった。これは1998年の前回優勝時に当社が試算した日本シリーズ優勝に伴う支出増加額（約58億円）を上回る金額である。19年ぶりの優勝フィーバーが地域の消費マインドの改善につながれば、更なる経済効果の上積みも期待できよう。

【本件についてのお問い合わせ先】

（株）浜銀総合研究所 調査部

部長・上席主任研究員 北田 英治

TEL. 045-225-2375

【試算の対象および前提条件】

横浜DeNAベイスターズが日本シリーズ制覇を成し遂げた場合において、横浜市内で生じる各種の支出増加額。具体的には次の通り。

- ・日本シリーズにおける横浜スタジアム来場者による飲食・物販消費、入場料、交通費、宿泊費、および日本シリーズ終了後における優勝セール、優勝祝賀イベント等による消費。
- ・試算の前提として、横浜DeNAベイスターズが先に4勝して日本一になる。横浜スタジアムの試合数を3、総入場者数を8万7,000人(3試合とも満員)と想定^(注)。

【試算結果】

- ・日本シリーズ優勝による新たな支出額——75億5,200万円

(内訳)

- (1) 日本シリーズにおけるスタジアム来場者の消費額

(飲食、物販、入場料、交通費、宿泊費) 9億7,000万円※

- (2) 優勝セールによる商業売上げの増加(物販) 61億8,200万円

- (3) 祝賀イベント等による消費額の増加(飲食) 4億円

※試合観戦中だけでなく、観戦前後の消費を含む

(注) 2017年日本シリーズの日程

試合	予定日	場所
第1戦	10月28日(土)	ヤフオクドーム
第2戦	10月29日(日)	ヤフオクドーム
第3戦	10月31日(火)	横浜スタジアム
第4戦	11月1日(水)	横浜スタジアム
第5戦	11月2日(木)	横浜スタジアム
第6戦	11月4日(土)	ヤフオクドーム
第7戦	11月5日(日)	ヤフオクドーム

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。

(参考1)

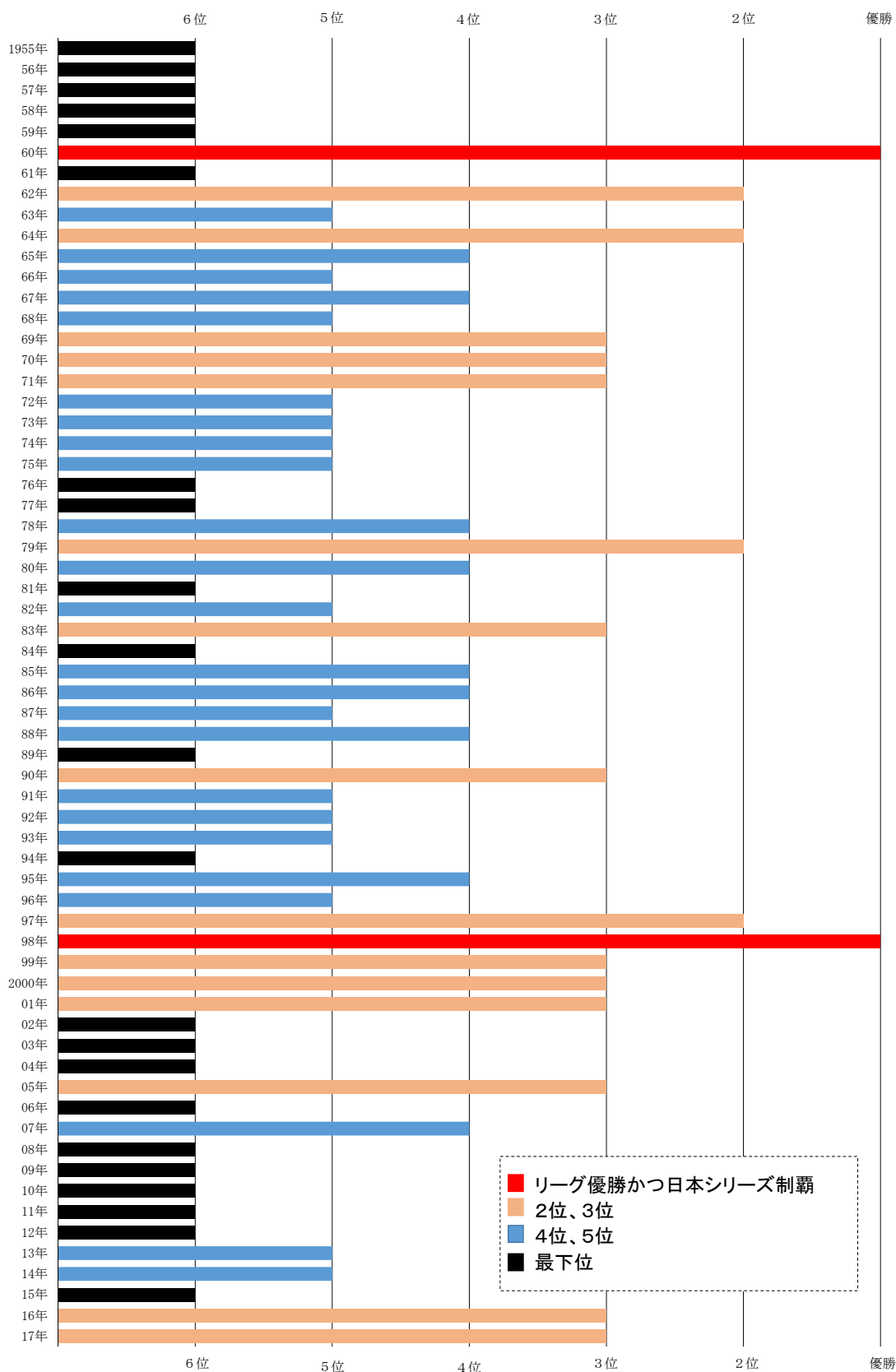
歴代の日本シリーズ対戦カード

	セ・リーグ	パ・リーグ
1998年	横浜	西武
1999年	中日	ダイエー
2000年	巨人	ダイエー
2001年	ヤクルト	近鉄
2002年	巨人	西武
2003年	阪神	ダイエー
2004年	中日	西武
2005年	阪神	ロッテ
2006年	中日	日本ハム
2007年	中日	日本ハム
2008年	巨人	西武
2009年	巨人	日本ハム
2010年	中日	ロッテ
2011年	中日	ソフトバンク
2012年	巨人	日本ハム
2013年	巨人	楽天
2014年	阪神	ソフトバンク
2015年	ヤクルト	ソフトバンク
2016年	広島	日本ハム
2017年	横浜	ソフトバンク

(注) 黄色が日本シリーズの優勝チーム
(NPB資料)

(参考2)

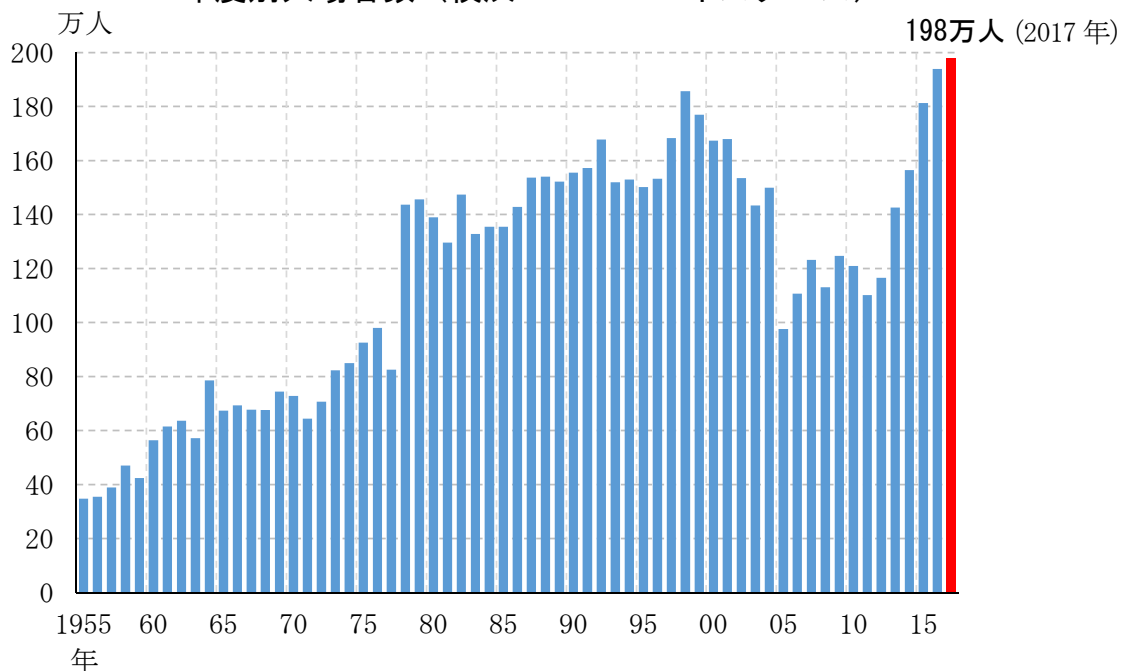
横浜DeNAベイスターズの公式戦順位



(注) 1955年～1977年までは大洋ホエールズ、1978年～1992年までは横浜大洋ホエールズ、1993年～2011年までは横浜ベイスターズ。
(NPB資料)

(参考3)

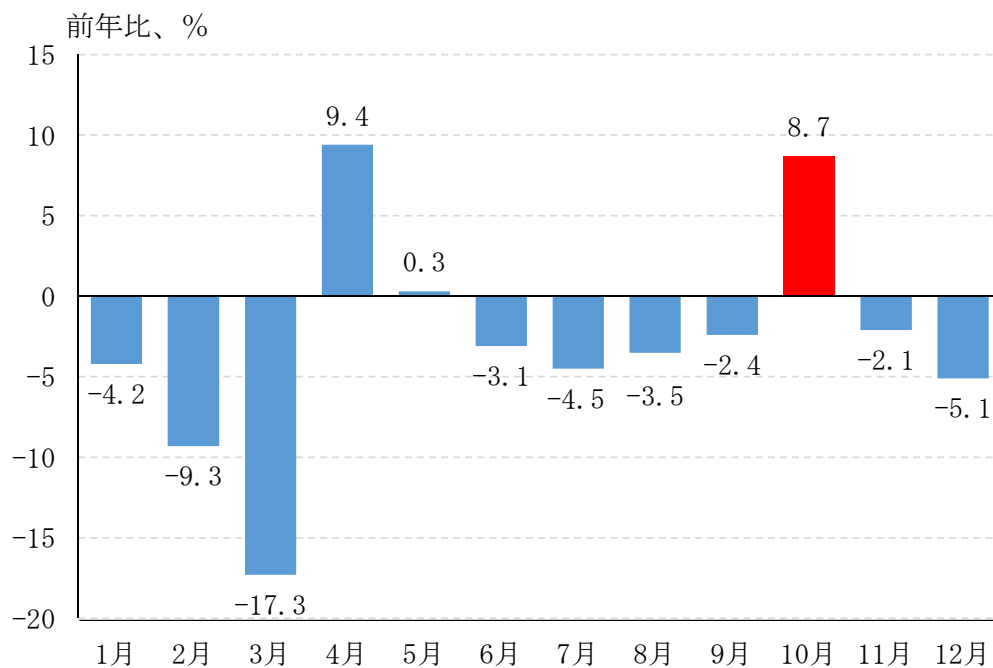
年度別入場者数（横浜DeNAベイスターズ）



(注) 横浜DeNAベイスターズの主催試合。
(NPB資料)

(参考4)

横浜市内の百貨店販売額（前回優勝時、1998年）



(各百貨店の発表資料より作成)